

郡山・「北天領」からの便り  
白河・「こころん」のみなさんからのお願い

先般、6月上旬、福島県郡山市で生活訓練施設を運営している「北天領」（飯野施設長）を訪問させて頂き、福島県内の精神関連の状況をお聞きし、会員の皆様にh p・メールにて報告させて頂きました。その後、9月に入り同施設長より、ご連絡をいただきまして、この訪問が契機となり、福島県内でも新精社協のような精神障害者福祉施設が集結し、相互に支援することができるネットワークの必要性が高まり、県内施設・事業所に呼びかけたところ、方々から賛同の声があがり、近日集まることになられたお知らせを頂きました。そして、先日9月27日に第1回目会議が開かれ、たくさんの施設長が集合され、福島の現状打開を協議されたとのことのご報告がありました。「新潟のみなさまの支えに心から感謝します」とのお話も頂きました。

さて、ここからはお願いですが、会議の際、白河にある就労系事業所「こころん」さんより、通常、作業種目では畑、水田を経営し、収穫後は稲わらと土を使用し、酒瓶等を入れるための器などを製造し首都圏に販売を行っているそうですが、この間の東電放射線量の影響でコメの売高は激減し、器製造に使う稲わらは福島産では取り扱ってくれず、まったく風評被害に難航しているとの悲鳴が上がったとのことでした。

つきましては、至急、新潟産の稲穂・稲わらを是非購入できないかというお願いが具体的にご連絡を頂きました。特に機械での収穫はわらが細かく刻まれてしまうことから、わらが束状になっているもので、多分、天日干しのものが扱いとして最も有効に利用できるということです。そのことを受け、会長・事務局から、時期的に新潟県内では収穫を終えた農家が多いため、取り急ぎ、新精社協会員のみなさまの中で、上記に該当する農家様をご存知の方がいらっしゃいましたら、是非にご連絡頂けますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

◆購入したい単位

稲ワラ 100束（両腕で抱える大きさ）  
稲穂 10束

◆ご連絡先 ⇒ \*夕映えの郷 金井

TEL : 025-534-3100 FAX : 025-534-6113

代表アドレス : [yu-bae@wonder.ocn.ne.jp](mailto:yu-bae@wonder.ocn.ne.jp)

\*支援センターこまくさ 田邊

TEL/FAX 025-553-2318

代表アドレス : [kocenter@tsukushinosato.com](mailto:kocenter@tsukushinosato.com)

◆依頼施設：社会福祉法人「こころん」のご紹介

〒969-0101 福島県西白河郡泉崎村泉崎字下根岸9

Tel : 0248-54-1115 Fax : 0248-53-3063

E-mail : [izumizaki@cocoron.or.jp](mailto:izumizaki@cocoron.or.jp) HP : <http://www.cocoron.or.jp/>

◆今後の新精社協における被災地支援について

まずは郡山・北天領の訪問から始まり、現在に至るまでにはかなりの時間を要しましたが、被災当事者である支援者方々の情報をもとに、次第に原発事故が福島県の子精神障害者福祉に及ぼした震撼な被害状況の一角を垣間見た現況です。

JDF 福島センター・あみ・全精ネット等の全国団体もほとんどピンポイントでの情報のみの把握に留まっています。冷淡にも国県の対応が驚くほどされておらず、福島県内で避難区域から立ち退いた住民は本当にちりぢりばらばらとなり、戸惑う不安な日を送っておられることが実態としてあるのみです、まったく進展がされていないのが現状なのです。

郡山・福島地区は放射線の土地沈殿の恐怖と小児発がんの恐怖と戦っておられるし、相馬地区・双方地区・浜通り地区避難区域では、避難先での福祉・医療が満足に受けられない苦痛に耐えている。また、いわき市では避難者が万単位で流れ込んでいる状況に対して、自己施設も被災しているにもかかわらず、たくさんの精神の福祉難民を受け入れ、その人たちの住む場と働く場・集う場を改めて立ち上げようと事業所単独が真摯に立ち向かっています。南相馬市では逃れてきた事業所が再建に向け、東京の医療専門家の支援を受け、新しい精神科医療・保健・福祉のシステムを国に予算化を求めています。ACTを中心とした入院医療からの脱却を柱としています。すでにモデル事業化が進んでいます。

会長、役員一同としては、特定の一事業所にあてるための支援を考えていません。行政も把握できない福島の現状を知るためには、つながりが持てた支援者や施設から情報を頂き、それを広げていく方法で、まずその時点で何がお手伝いできるのかを模索していくという歩幅で少しずつですが進んでいます。

先週9月27日（火）早朝から夜中にかけて、役員7名で福島県いわき市で精神の避難者を一手に受け入れている事業所へつながりを求めて出かけて参りました。交通費等全費用については、あくまで個人として、自己負担です。休暇を取り参加した役員もいました。

しかしながら、訪問させて頂き、お手伝いするどころか、まったくもって頭の下がる思いで帰路につきました次第でした。被災地にて、一生懸命の大切さに触れて参りました。

利用者と職員のことを第一義に考え、とにかく負けじと奮闘されておられました。詳しくは、別段でご報告いたします。特に、授産製品の風評被害が深刻であり、この点販売支援として、会員みなさまに何卒ご協力いただきたい、具体的内容もお知らせいたします。また、放射線におびえる地区の事業所数か所については、特段深刻な状況であると認識し、信頼できる国産の線量計を寄付することを進めています。このことについてもみなさまのご理解を真に賜りたく、改めて、後日お願い申し上げることとさせていただきます。（金井）